



第2章 健康に関する市民の現状と前計画の評価

1 健康に関する市民の現状

1) 人口構成・人口動態

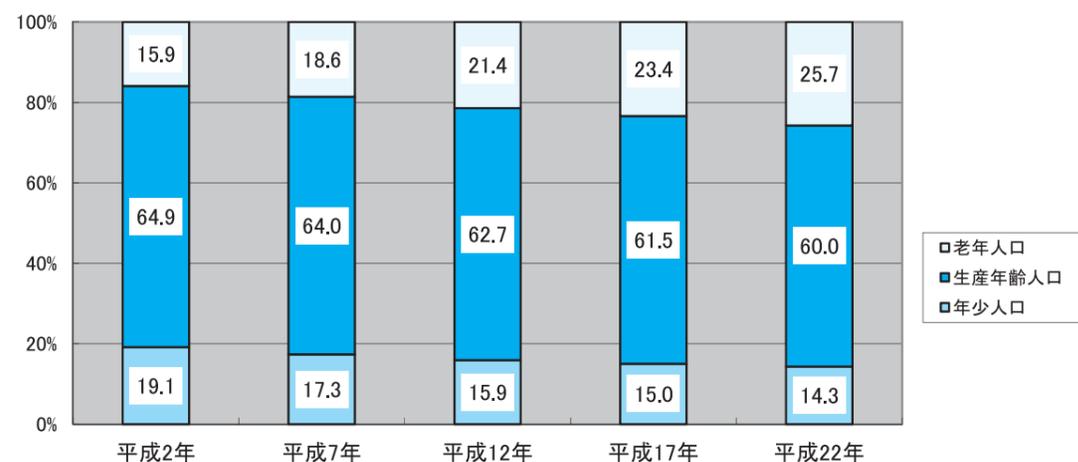
本市の総人口は、平成7年をピークに減少しています。しかし、65歳以上の老年人口は年々増加しており、平成22年10月1日において、総人口に占める割合は25.7%とすでに超高齢社会を迎えています（平成24年12月1日現在25.99%）。

一方、0～14歳の年少人口は減少傾向にあり、総人口に占める割合も14.3%と低く、ますます少子高齢化が進んでいることがわかります。

表4 人口推移

	総人口 (人)	年齢別構成比					
		年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
平成2年	112,386	21,516	19.1	72,987	64.9	17,874	15.9
平成7年	113,617	19,685	17.3	72,770	64.0	21,145	18.6
平成12年	111,499	17,713	15.9	69,958	62.7	23,822	21.4
平成17年	110,569	16,618	15.0	68,048	61.5	25,900	23.4
平成22年	106,788	15,146	14.3	63,561	60.0	27,184	25.7

グラフ1 年齢別人口推移

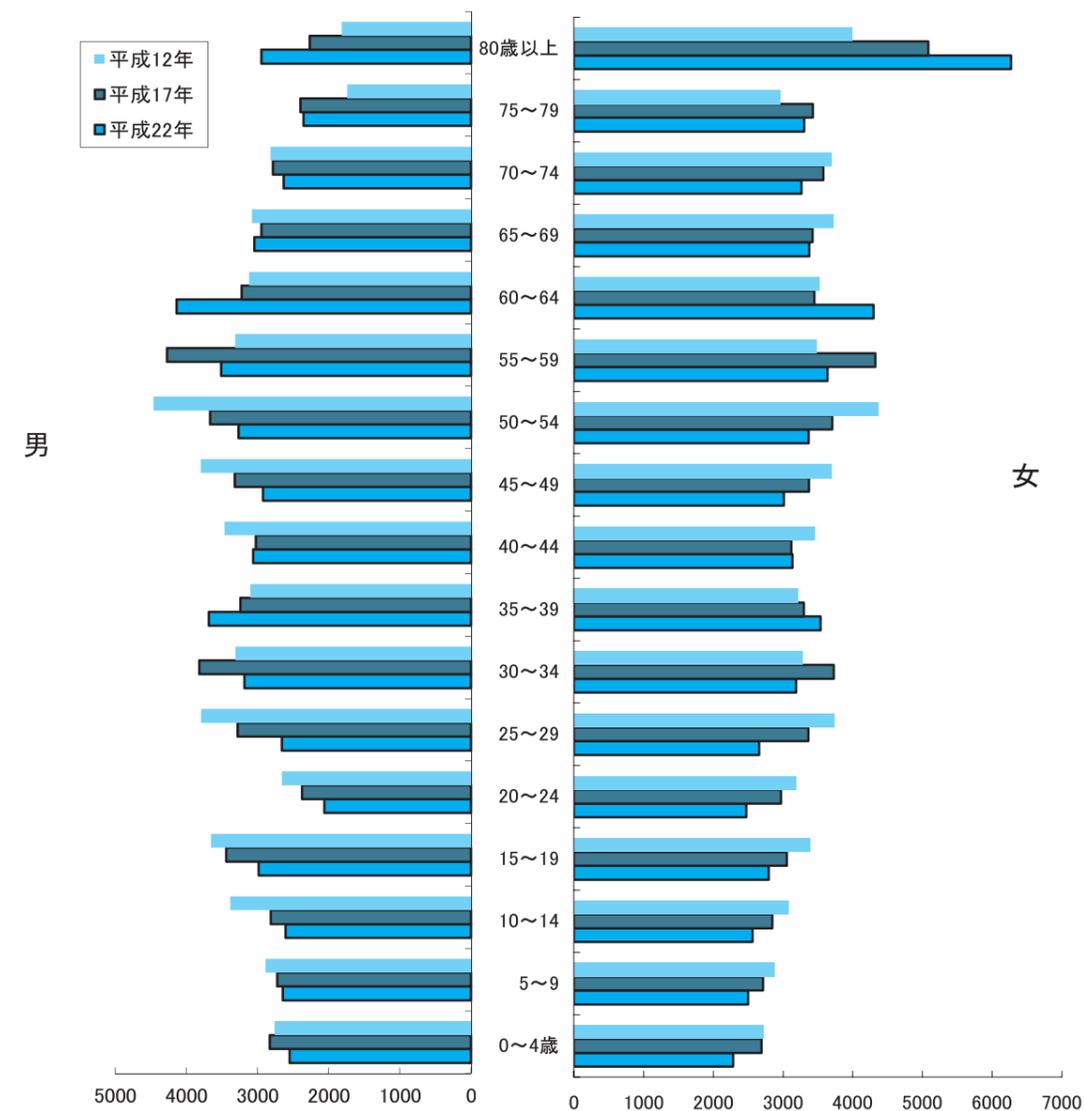


資料) 国勢調査(各10月1日)
総人口に年齢不詳を含む

本市の平成23年4月1日現在の人口ピラミッドは「紡錘型」で、今後の高齢化率の上昇が予想されます。

団塊の世代にあたる60歳～64歳の人口が多いことと、そのこども世代にあたる35歳～39歳の人口が多いことが特徴的です。

グラフ2 5歳年齢階級、男女別人口ピラミッド



資料) 国勢調査(各10月1日)

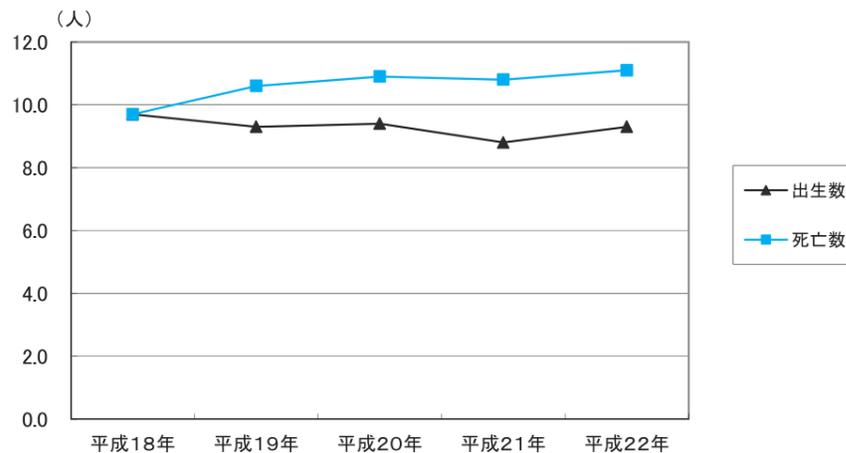
出生数は横ばい、死亡数はやや増加傾向にあります。

平成22年における本市の出生数は、996人で前年に比べ43人増加しています。死亡数は1,188人で前年より23人の増加であったことから、自然増減数では前年に比べ増加が大きくなっています。

表5 人口動態

		出生		死亡	
		実数(人)	出生数(人口千対)	実数(人)	死亡数(人口千対)
平成18年	津山市	1,068	9.7	1,066	9.7
	岡山県	17,279	8.9	18,317	9.5
	全国	1,092,674	8.7	1,084,450	8.6
平成19年	津山市	1,023	9.3	1,162	10.6
	岡山県	17,099	8.8	18,325	9.5
	全国	1,089,818	8.6	1,108,334	8.8
平成20年	津山市	1,026	9.4	1,183	10.9
	岡山県	17,044	8.8	19,393	10.0
	全国	1,091,156	8.7	1,142,407	9.1
平成21年	津山市	953	8.8	1,165	10.8
	岡山県	16,387	8.5	18,948	9.8
	全国	1,070,035	8.5	1,141,865	9.1
平成22年	津山市	996	9.3	1,188	11.1
	岡山県	16,759	8.7	20,248	10.5
	全国	1,071,304	8.5	1,197,012	9.5

グラフ3 人口千対の出生数と死亡数



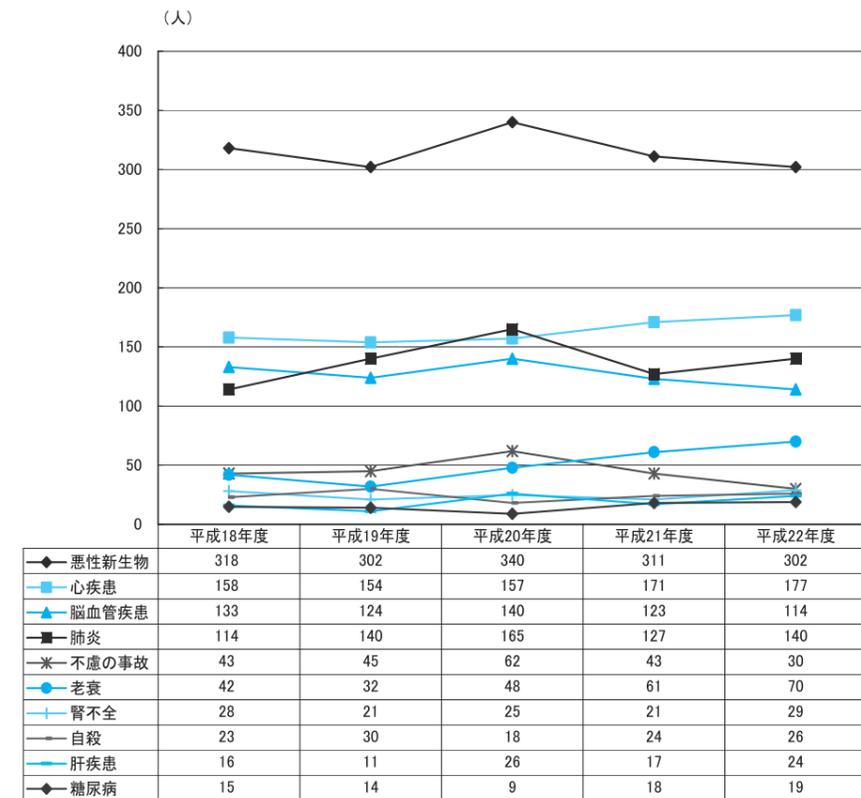
資料) 平成18~22年衛生統計年報

2) 死亡統計

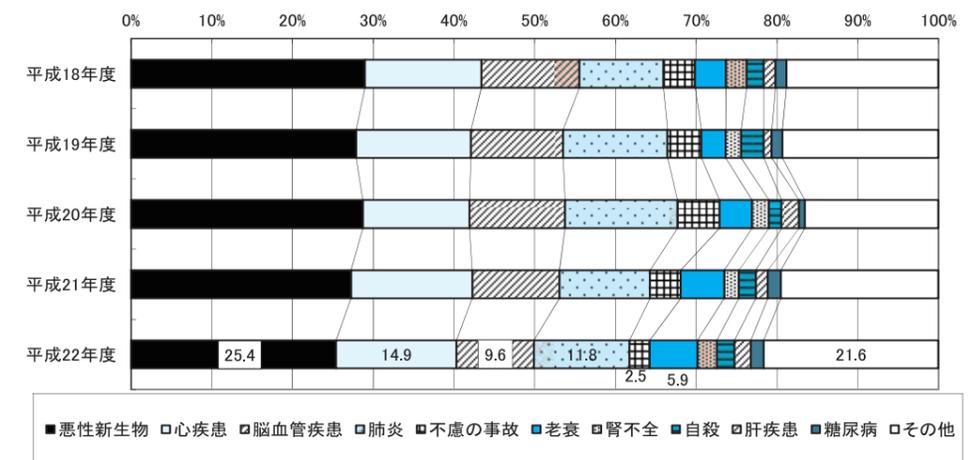
(1) 死因割合

近年、悪性新生物が死因の首位を占め、心疾患と脳血管疾患が第2位と第3位を分け合う形になっていましたが、平成21年以降は肺炎が第3位となっています。悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の三大生活習慣病が全死因に占める割合は5割を超えており、依然高い状況が続いています。

グラフ4 死因別死亡者数の推移



グラフ5 死因割合の年次推移



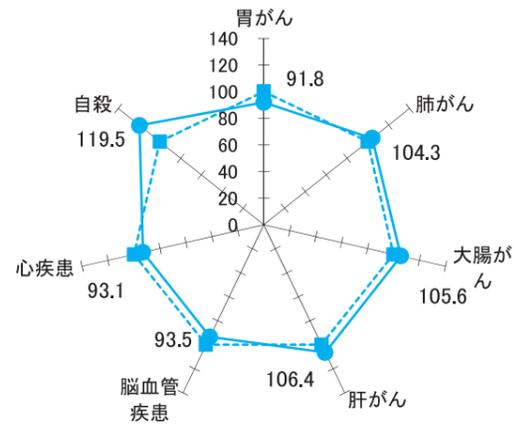
資料) 美作保健所提供

(2) 性・死因別標準化死亡比<<SMR (平成18年~22年)>>

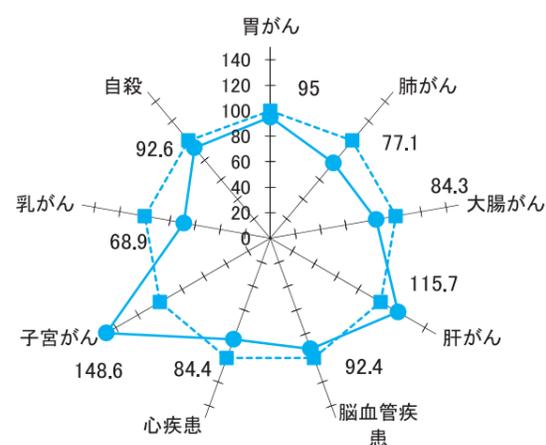
性別標準化死亡比 (SMR) を見ると、本市は男女とも肝臓がんが高く、加えて男性は自殺、大腸がん、肺がんが、女性は子宮がんが高くなっています。

※標準化死亡比 (SMR) : 地域間の年齢分布の違いを補正して比較する指標 (岡山県を100とした場合)

グラフ6 死因別 SMR (男性)



グラフ7 死因別 SMR (女性)

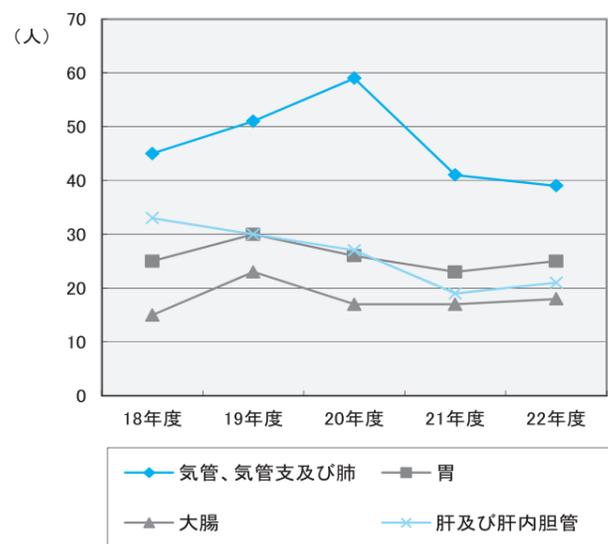


資料) 美作保健所提供

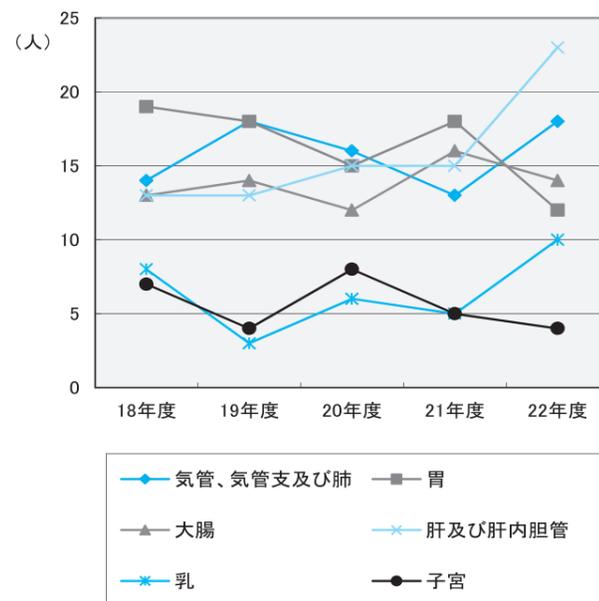
(3) 悪性新生物部位別死亡者数

死亡者数を見ると、男性では肺がん、女性では肝臓がんが最も多くなっています。女性では、平成22年度は肝臓がんの死亡者数が前年に比べ急増しています。

グラフ8 がん部位別死亡者数 (男性)



グラフ9 がん部位別死亡者数 (女性)

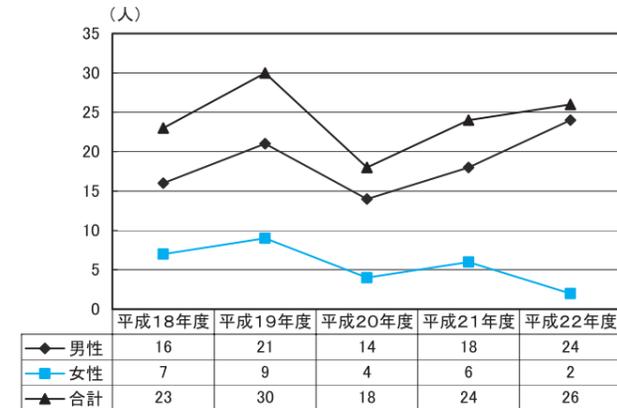


資料) 美作保健所提供

(4) 自殺死亡者の状況

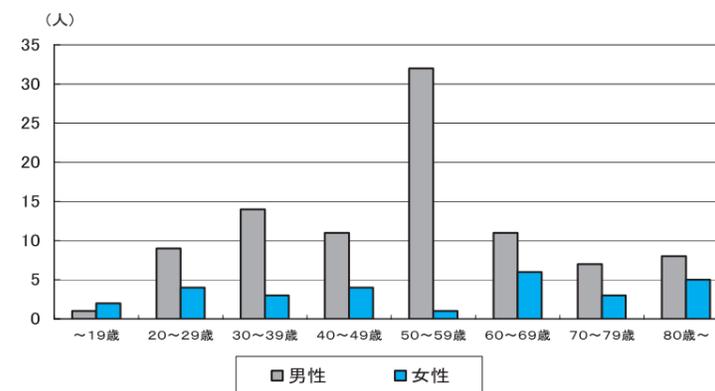
本市の自殺死亡者数は、平成20年度に減少しましたが、平成21年度以降再び増加しています。また、自殺者は、女性より男性が多くなっています。年代別死亡者数の5年間の合計を見ると、男性では50~59歳で最も多く、他の年代の倍以上の数値となっています。女性では60~69歳で最も多くなっています。

グラフ10 自殺死亡者数の推移



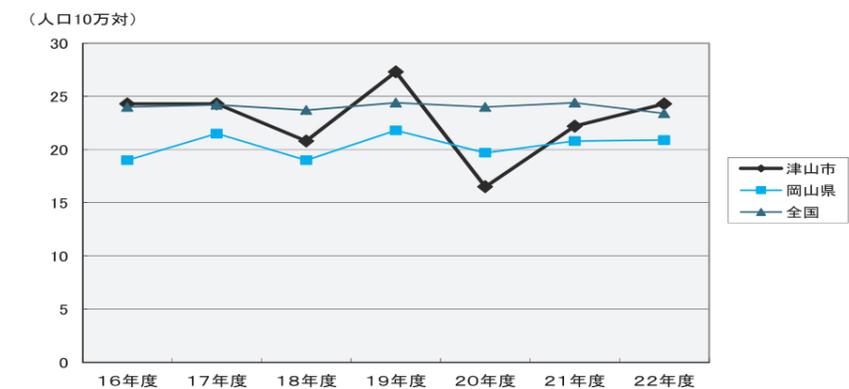
資料) 美作保健所提供

グラフ11 年代別自殺死亡者数 (平成18~22年合計)



資料) 美作保健所提供

グラフ12 自殺死亡率 (人口10万対) の年次推移



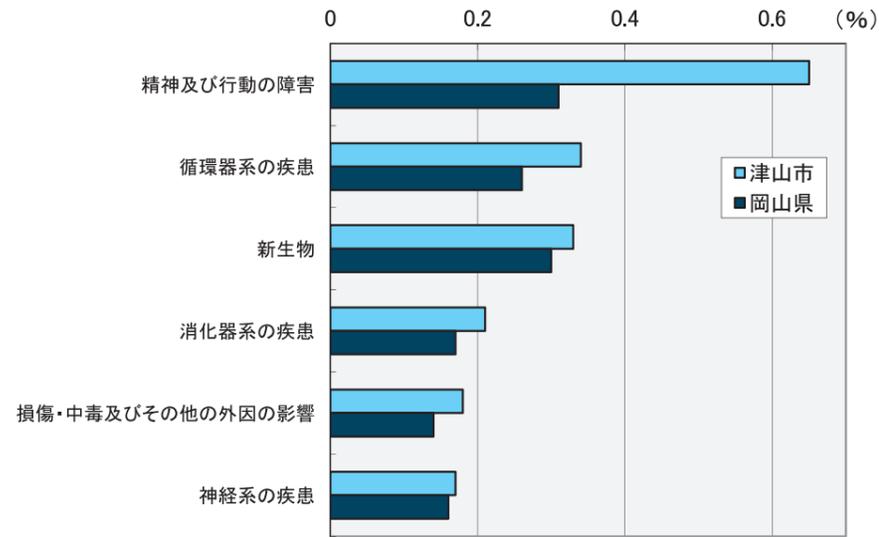
資料) 美作保健所提供

3) 医療の状況

(1) 主要疾患の受診状況

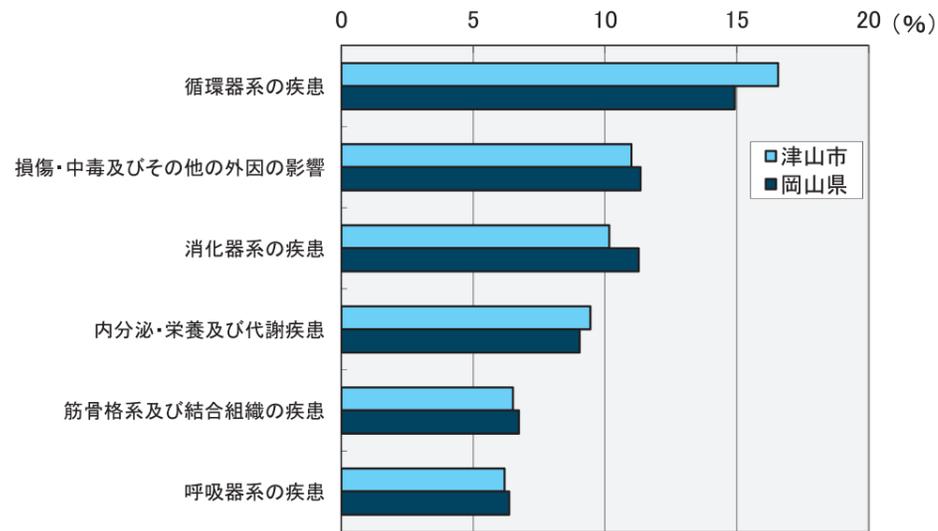
受診率別疾病表をみると、入院については精神障害等の比率が県の2倍以上の割合になっています。また、外来（入院以外）では循環器系の疾患、内分泌・栄養及び代謝の疾患が県と比べ高くなっています。

グラフ13 入院受診率の高い疾病の割合



資料) 国民健康保険疾病大分類別分類 (平成24年6月診療)

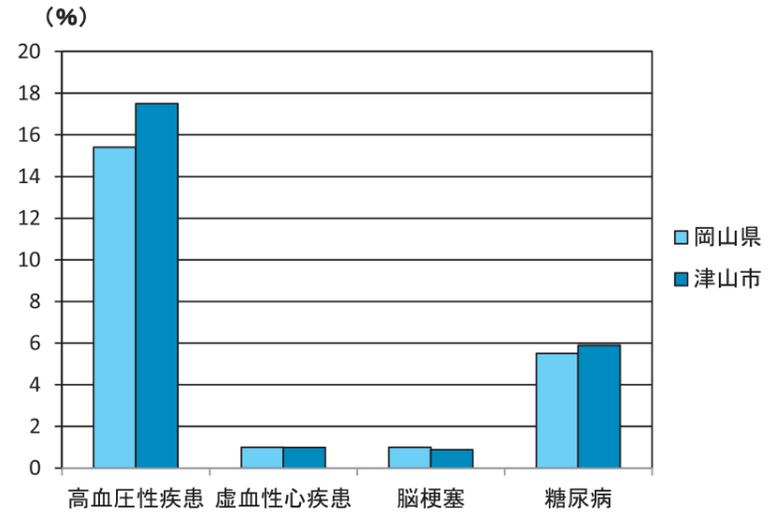
グラフ14 入院以外での受診率の高い疾病の割合



資料) 国民健康保険疾病大分類別分類 (平成24年6月診療)

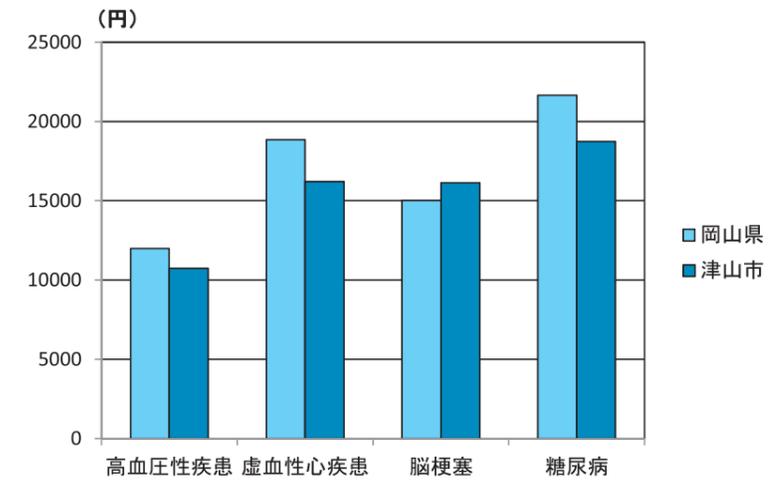
40～74歳の国民健康保険被保険者の受診率を疾病別に見ると、高血圧性疾患・糖尿病の比率が高く、県と比べても高い値であることがわかります。一方で、1件あたり診療費はいずれも県と比較し低くなっています。

グラフ15 40～74歳国保被保険者 受診率 (入院・外来合計)



資料) 平成24年5月国保医療費統計

グラフ16 40～74歳国保被保険者 1件あたり診療費 (入院・外来合計)



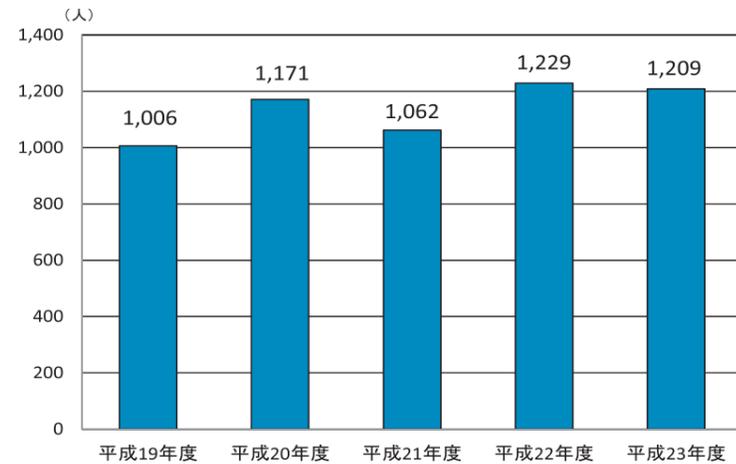
資料) 平成24年5月国保医療費統計

4) 精神保健福祉の状況

(1) 精神通院者数の推移

自立支援医療による精神通院者数は増加傾向にあり、平成23年度には1,209人で平成19年度に比べて203人増加しています。

グラフ17 自立支援医療による精神通院者数の推移

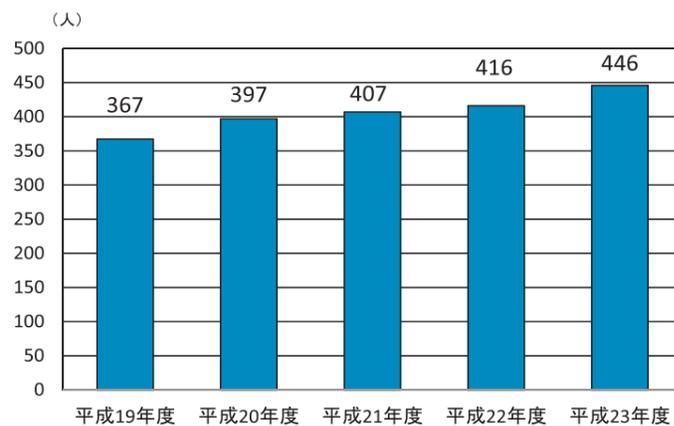


資料) 美作保健所提供

(2) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳の所持者数は、平成23年度には446人となっており、平成19年度に比べて79人増加しています。

グラフ18 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移



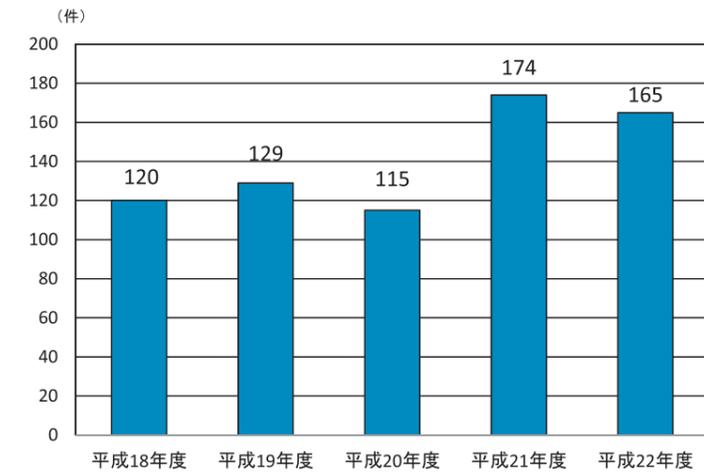
資料) 美作保健所提供

(3) 医療保護入院の件数

医療保護入院とは、精神保健指定医によって診断された場合、本人の同意がなくても、保護者または扶養義務者の同意により精神科病院に入院することができる制度です。

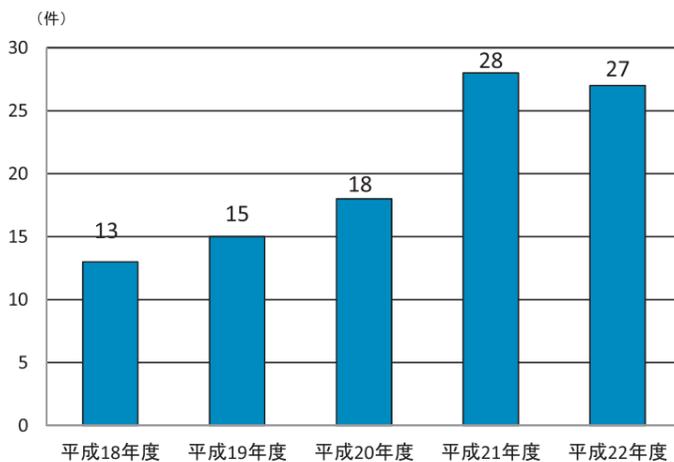
医療保護入院の件数は、平成22年度は165件であり、平成18年度に比べて45件増加しています。

グラフ19 医療保護入院の件数



資料) 美作保健所提供

グラフ20 緊急対応の件数



資料) 美作保健所提供

5) 生活習慣病の状況

(1) 特定健康診査受診結果について

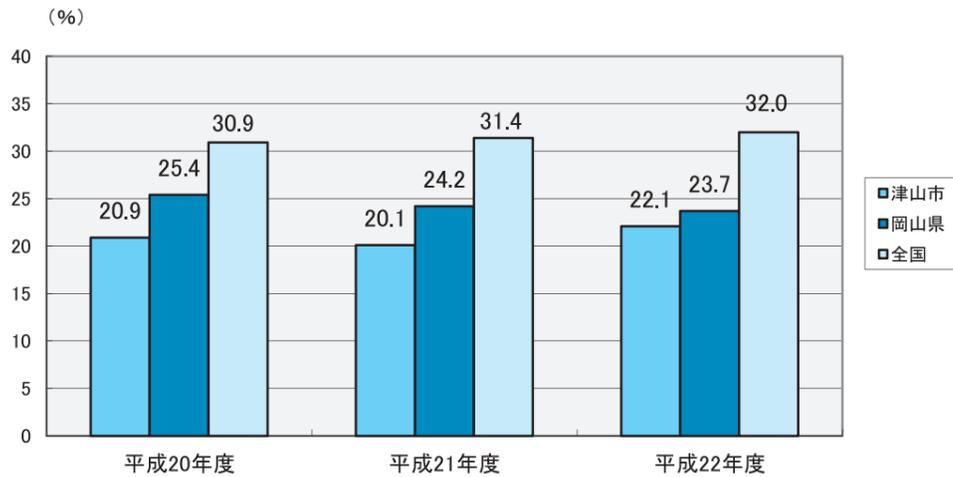
平成20年4月から糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備群の減少を目指し、メタボリックシンドロームの概念を導入した標準的な健診・保健指導が開始されました。

平成22年度の受診者数は3,465人(受診率22.1%)となっています。

表6 特定健康診査等実施状況

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
特定健康診査対象者数	15,791人	15,748人	15,698人
特定健康診査受診者数	3,299人	3,159人	3,465人
健診受診率	20.9%	20.1%	22.1%
特定保健指導(積極的支援)の対象者数	147人	104人	138人
特定保健指導(積極的支援)の終了者数(人)	0人	4人	9人
特定保健指導(積極的支援)の終了者の割合(%)	0%	3.8%	6.5%
特定保健指導(動機付け支援)の対象者数	388人	368人	351人
特定保健指導(動機付け支援)の終了者数(人)	6人	43人	70人
特定保健指導(動機付け支援)の終了者の割合(%)	1.5%	11.7%	19.9%

グラフ21 特定健康診査受診率

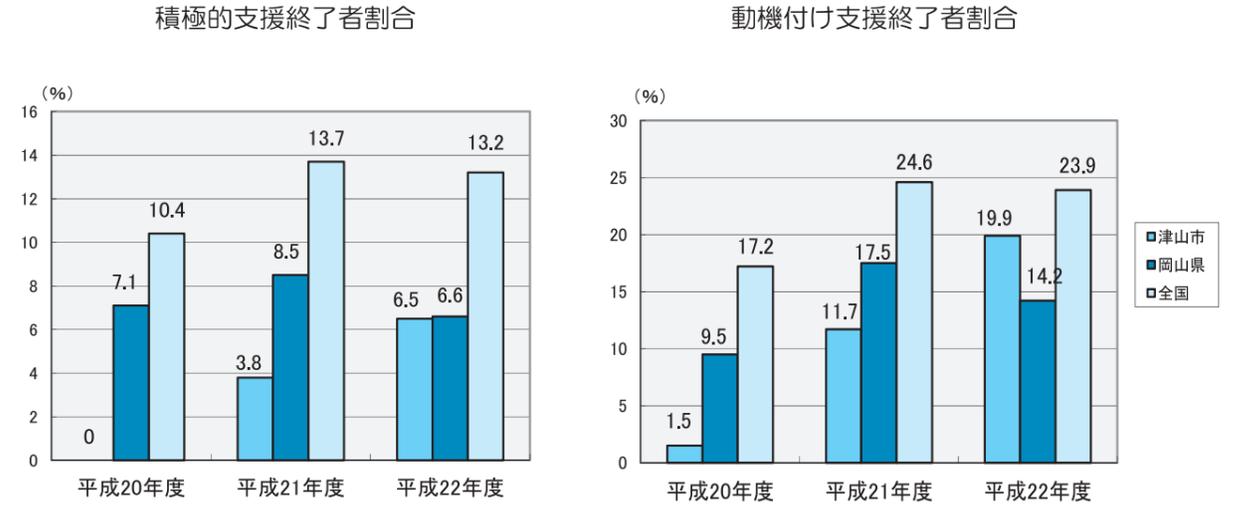


資料) 岡山県の成人保健

特定保健指導は、特定健康診査の結果により「動機付け支援」「積極的支援」に該当した人に対してのみ実施されます。

本市の「積極的支援」終了者の割合は、全国・岡山県に比べて低いことがわかります。

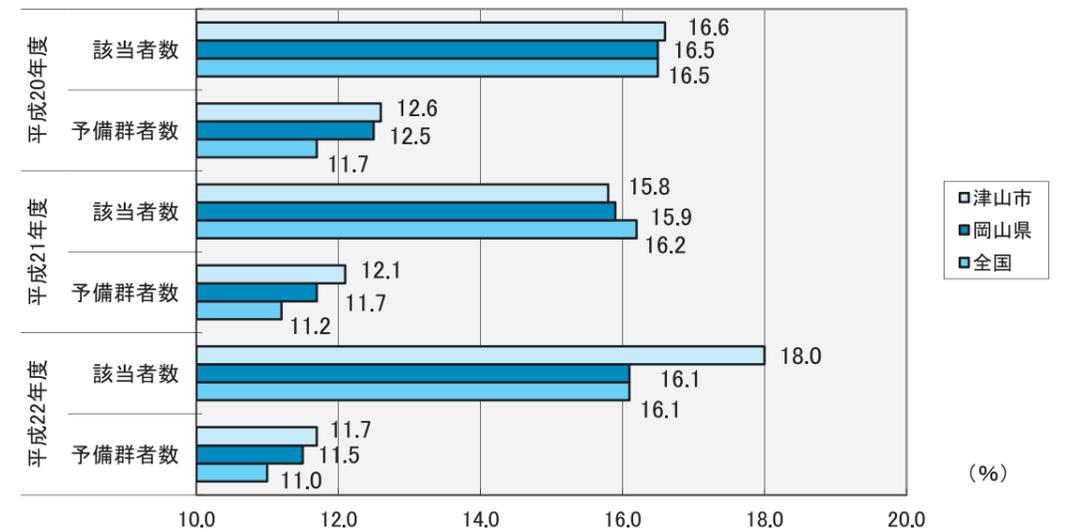
グラフ22 特定保健指導(積極的支援及び動機付け支援)利用状況



資料) 岡山県の成人保健

メタボリックシンドローム該当者およびその予備群の状況を比較すると、本市は予備群の割合が全国・県よりも高いことがわかります。

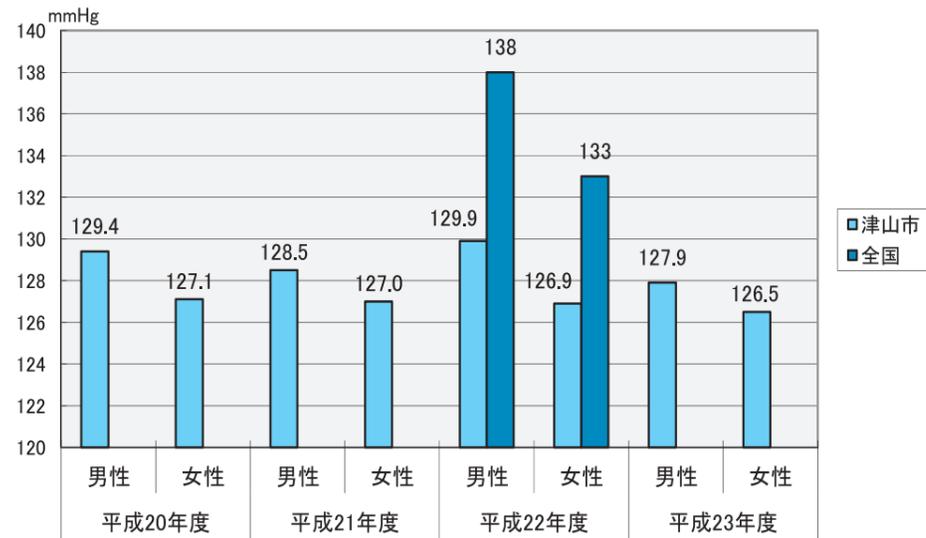
グラフ23 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)該当者および予備群者の推移



資料) 岡山県の成人保健

収縮期血圧の平均値は、全国に比べて低くなっています。

グラフ 24 収縮期血圧平均値（特定健康診査受診者）

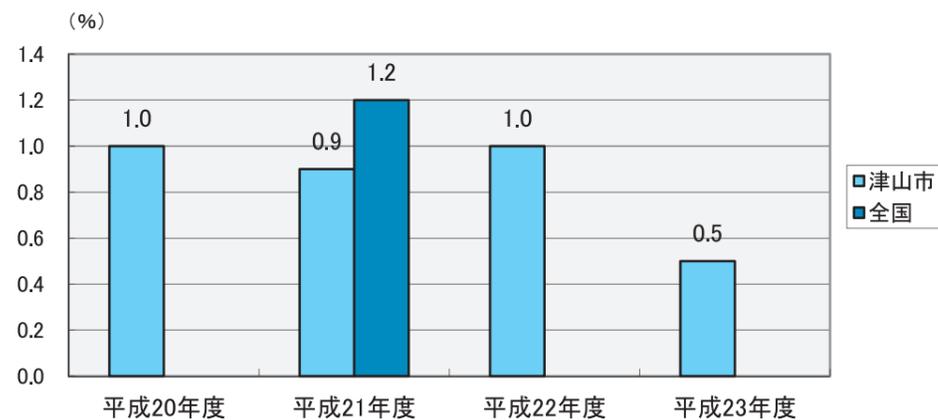


資料) 津山市特定健康診査結果
全国データ：健康日本 21（第2次）より

HbA1c は、赤血球中のヘモグロビン（Hb）とブドウ糖が体内で結合してできるもので、血糖値の上昇とともに増え、長時間血液中にとどまります。そこで、HbA1c を測定することにより過去1～2ヶ月の平均的な血糖の状態を調べられることから、血糖値とともに糖尿病の判定基準に用いられます。

本市の特定健康診査受診者における HbA1c の血糖コントロール不良者（JDS 値 8.0%以上）の割合は、全国に比べて低いことがわかります。

グラフ 25 HbA1c（JDS 値 8.0%）以上の者の割合（特定健康診査受診者）

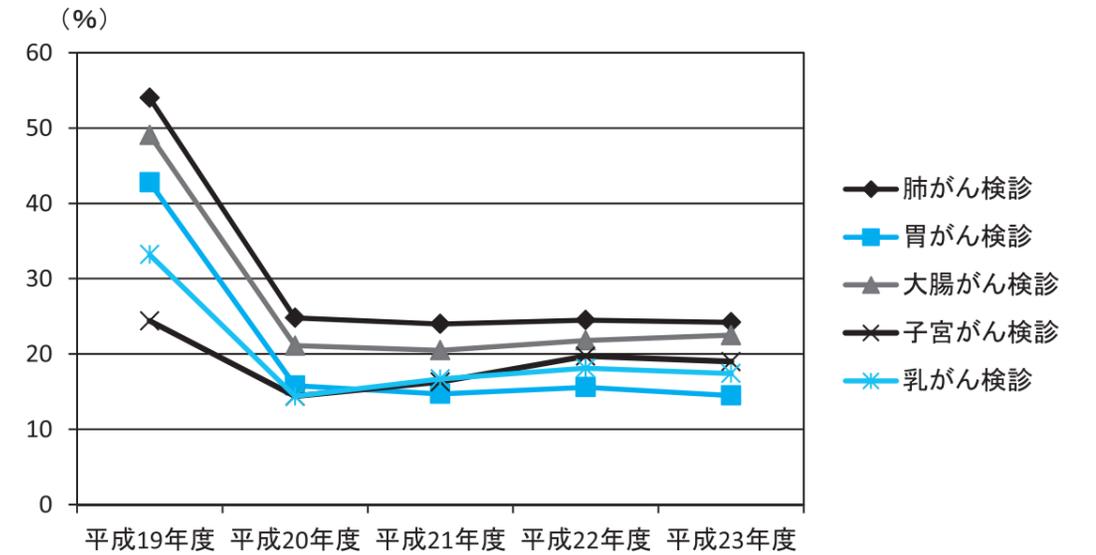


資料) 津山市特定健康診査結果
全国データ：健康日本 21（第2次）より

(2) がん検診受診状況

がん検診の受診者について、平成 20 年度より対象者数の算出方法が変わり、すべてのがん検診において受診者の減少がみられました。以降は多少の増減はあるものの、ほぼ横ばいで推移しています。

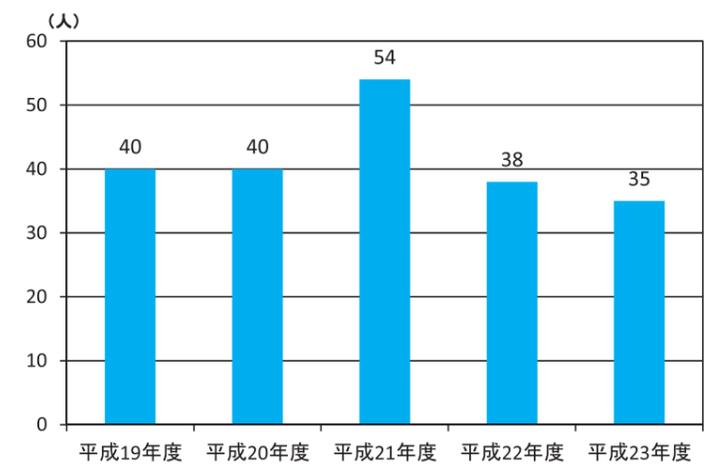
グラフ 26 がん検診受診率の年次推移



資料) 津山市がん検診結果

(3) 新規透析導入患者数の推移

グラフ 27 更生医療新規申請者数（年間新規透析導入患者数）

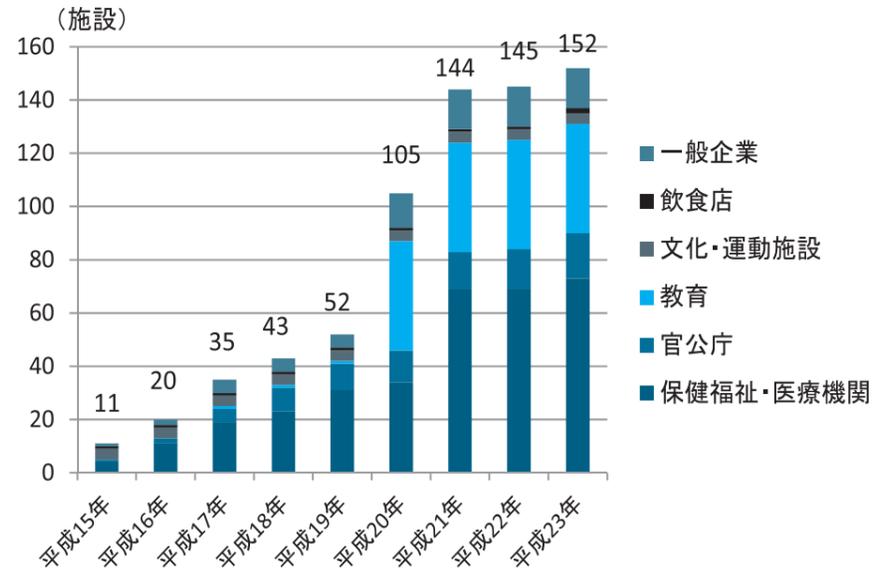


資料) 障害福祉課提供

(4) 禁煙施設数の推移

市内の禁煙施設数は年々増加しており、平成23年の禁煙施設数152施設で、平成15年の10倍以上となっています。

グラフ28 市内の禁煙施設数の推移

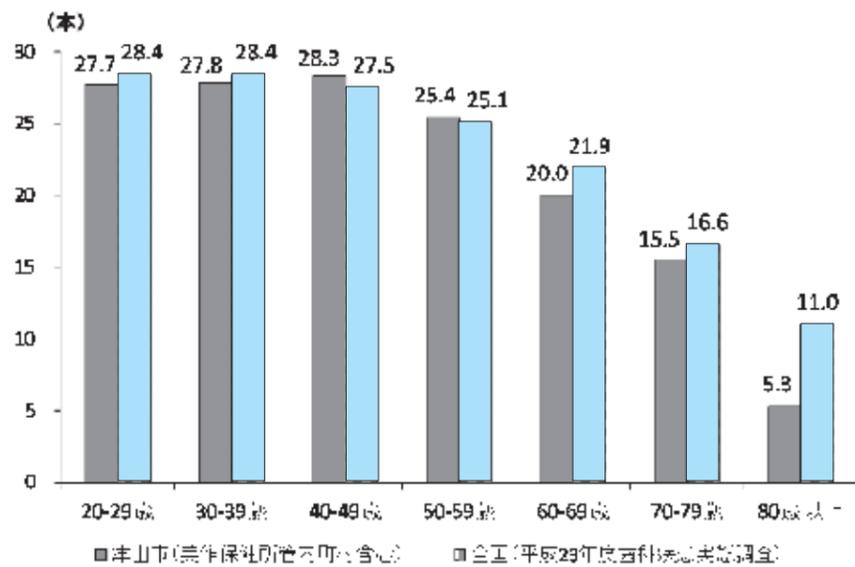


資料) 美作保健所提供

(5) 年代別残存歯数

60歳からの残存歯数は、全国より少なくなっています。

グラフ29 年代別残存歯数

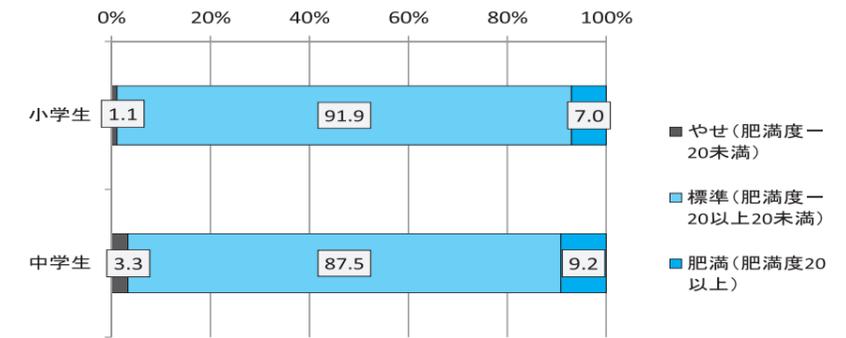


資料) 美作保健所提供

6) こどもの状況

(1) こどもの肥満度 (学校統計調査式)

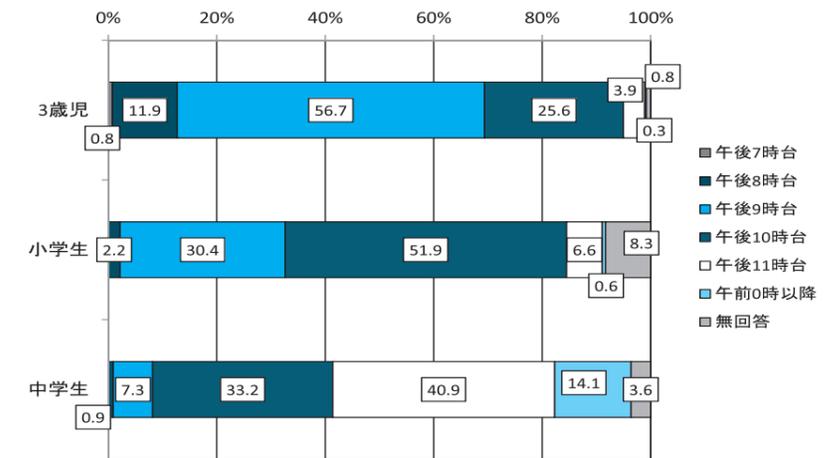
グラフ30 こどもの肥満度



資料) 岡山県学校保健概要調査 (平成23年度)

(2) こどもの就寝時間

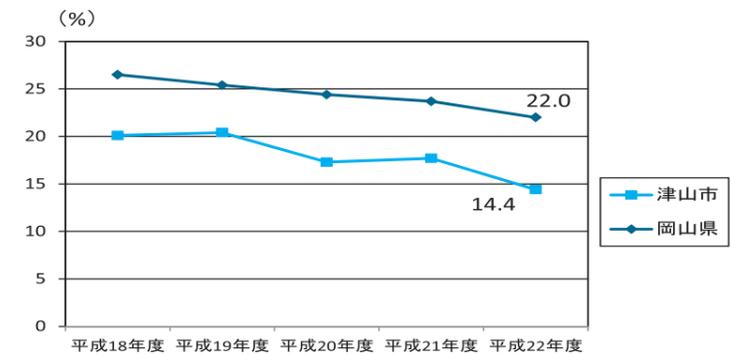
グラフ31 こどもの就寝時間



資料) 3歳児: 平成23年度3歳児健診食生活アンケート
小学生・中学生: 平成23年度健康づくりアンケート

(3) むし歯有病率

グラフ32 3歳児のむし歯有病率の推移



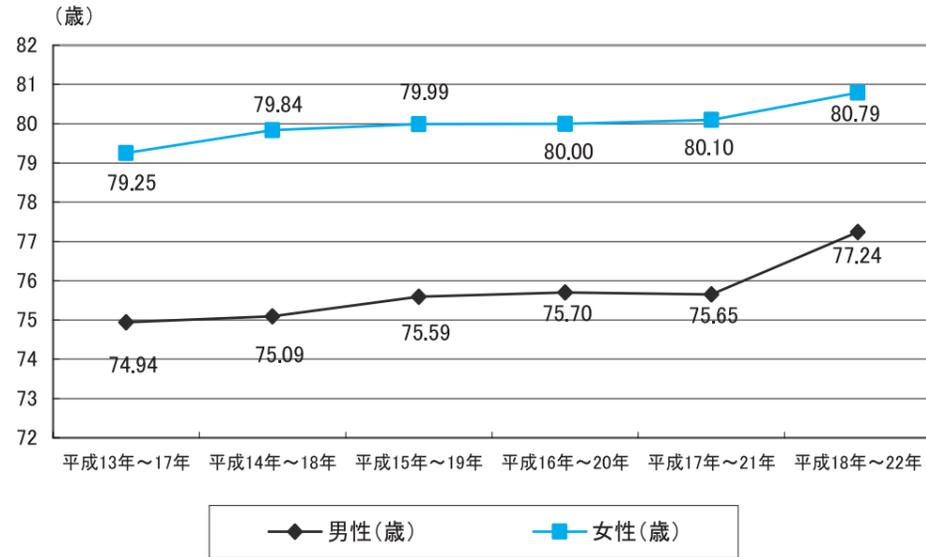
資料) 岡山県の母子保健・津山市3歳児健診結果

7) 高齢期の状況

(1) 健康寿命の推移

日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、平成22年時点で男性が77.24年、女性が80.79年となっており、平成13年と比べて延びています。平成22年における平均寿命と健康寿命の差は、男性では2.85年、女性では5.64年となっています。

グラフ33 健康寿命の推移

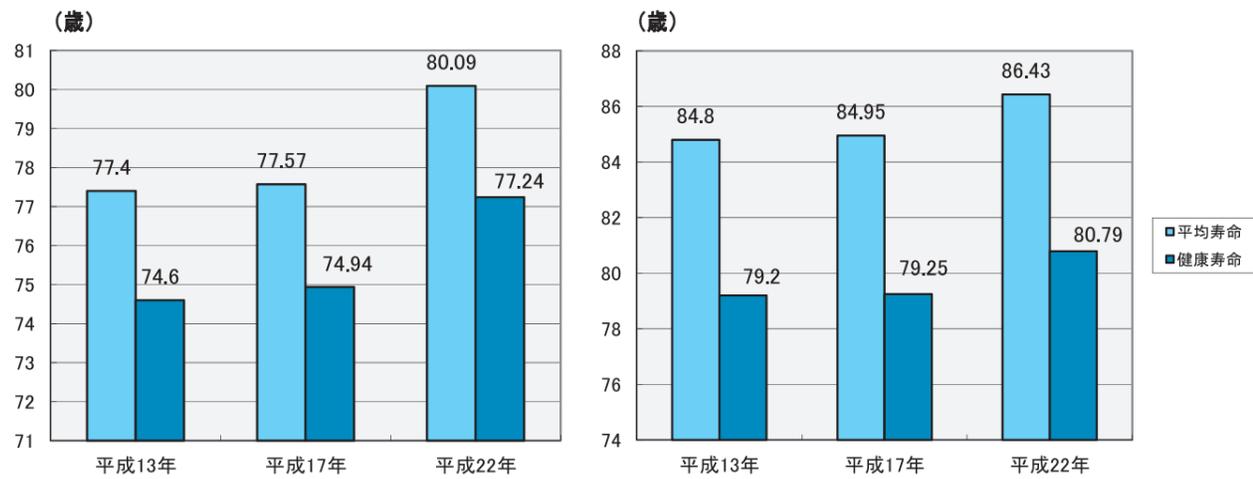


◆ 男性(歳) ■ 女性(歳)

グラフ34 健康寿命と平均寿命の推移

男性

女性

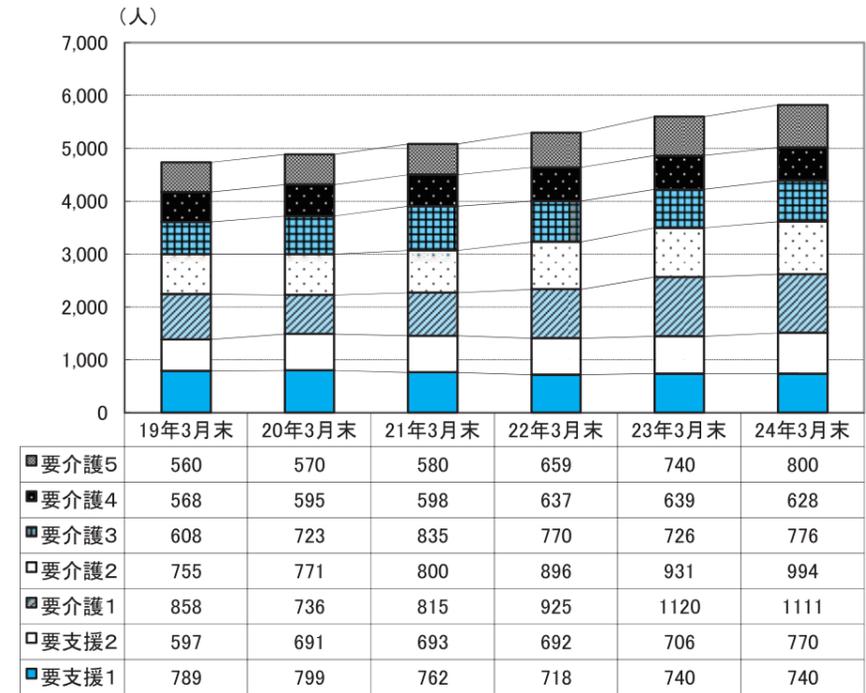


■ 平均寿命
■ 健康寿命

(2) 要介護認定者の状況

本市の要介護・要支援認定者は年々増加しています。平成19年から平成24年にかけて、全体では1,084人増加していました。

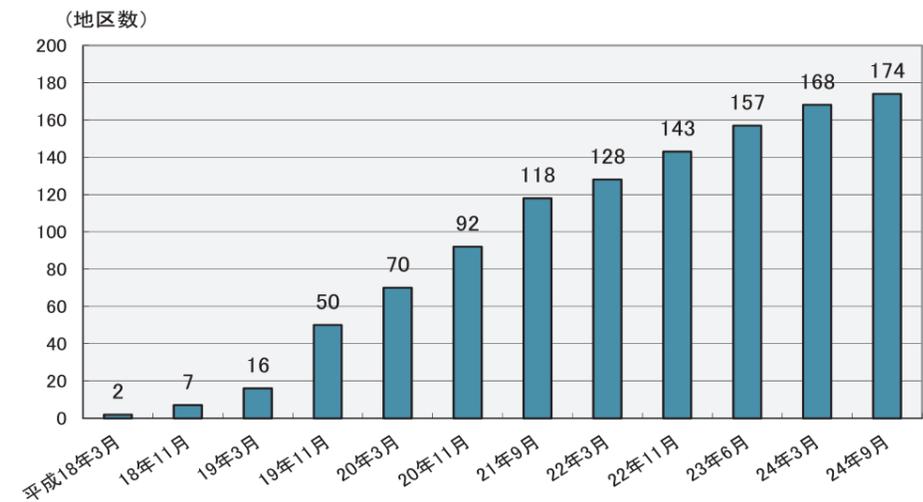
グラフ35 要介護認定者の状況



資料) 高齢介護課提供

(3) 介護予防事業の状況

グラフ36 「めざせ元気!! こけないからだ講座」実施地区の推移



資料) 高齢介護課提供

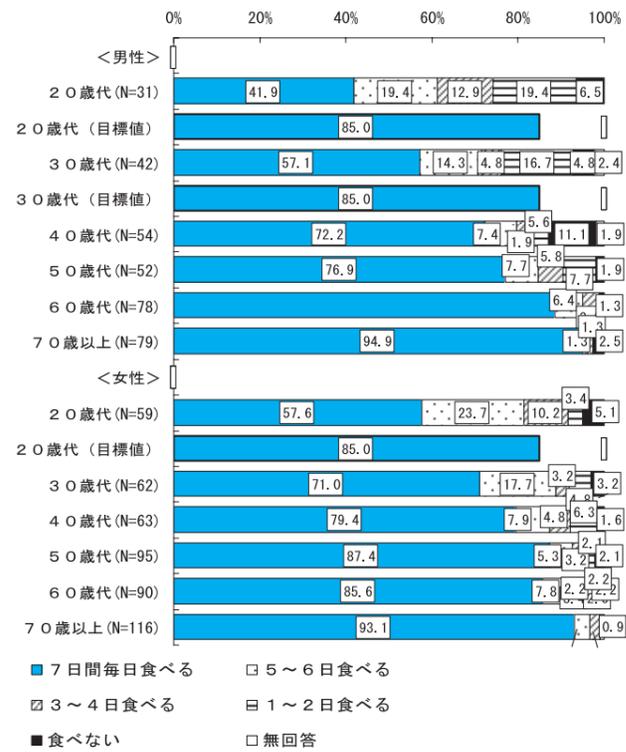
8) 「健康つやま 21」健康づくりアンケート・健康基礎調査結果

本市では「第2次健康つやま 21」計画を策定するにあたり、前計画の総括と次期計画に向けての現状と課題を把握するため、健康づくりアンケート（小・中・高校生）・健康基礎調査（成人）を平成 23 年度に実施しました。

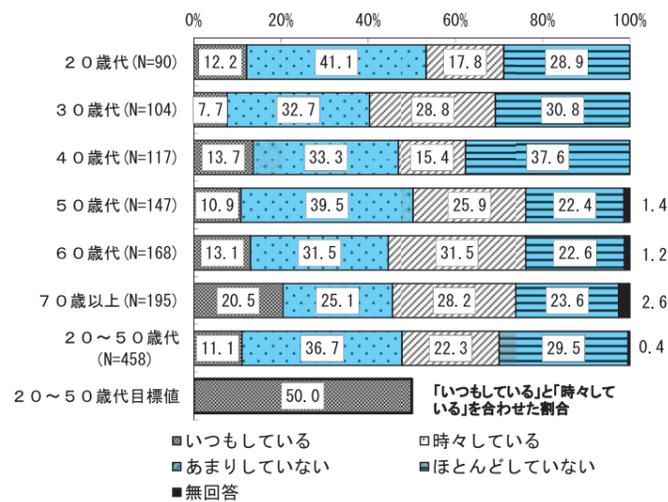
調査の対象は、市内の小・中・高校生 783 人と、市内在住 20 歳以上の住民 2,100 人で、有効回収率はそれぞれ 83.5%、39.2%でした。

(1) 栄養・食生活

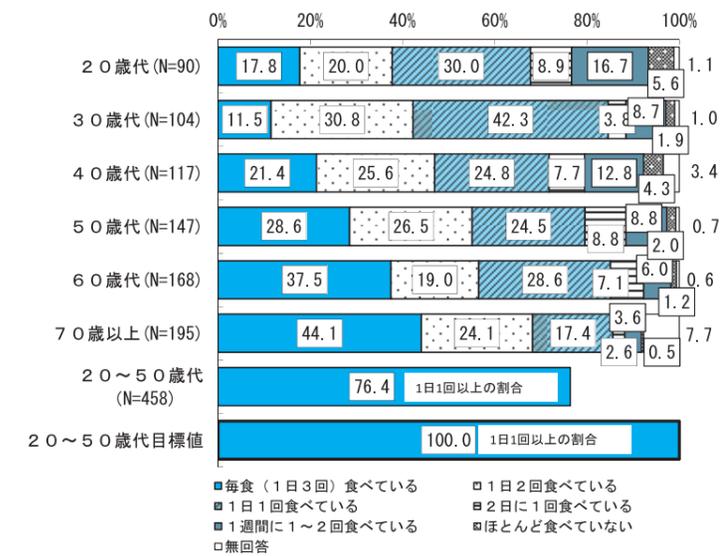
グラフ 37 1 週間の内で朝食を食べる日数



グラフ 38 栄養成分表示（エネルギー、塩分量など）を参考にしている人

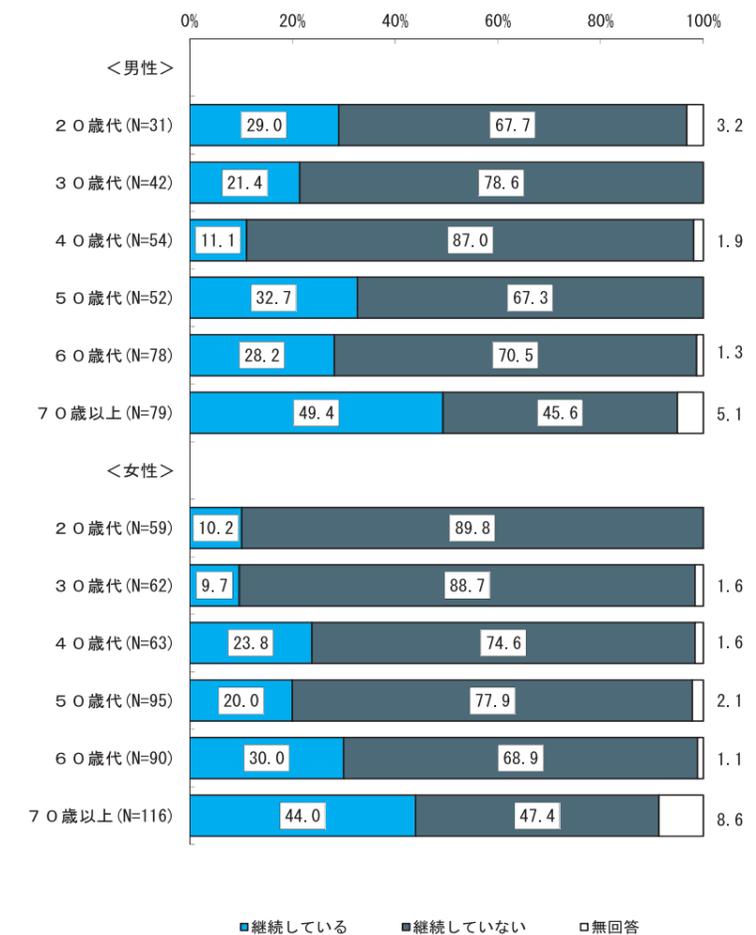


グラフ 39 野菜中心の料理（1品でもよい）を摂取している人



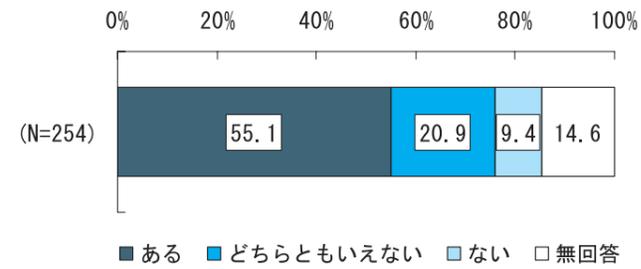
(2) 身体活動・運動

グラフ 40 1回に30分以上の運動を週2回以上、1年以上継続している人

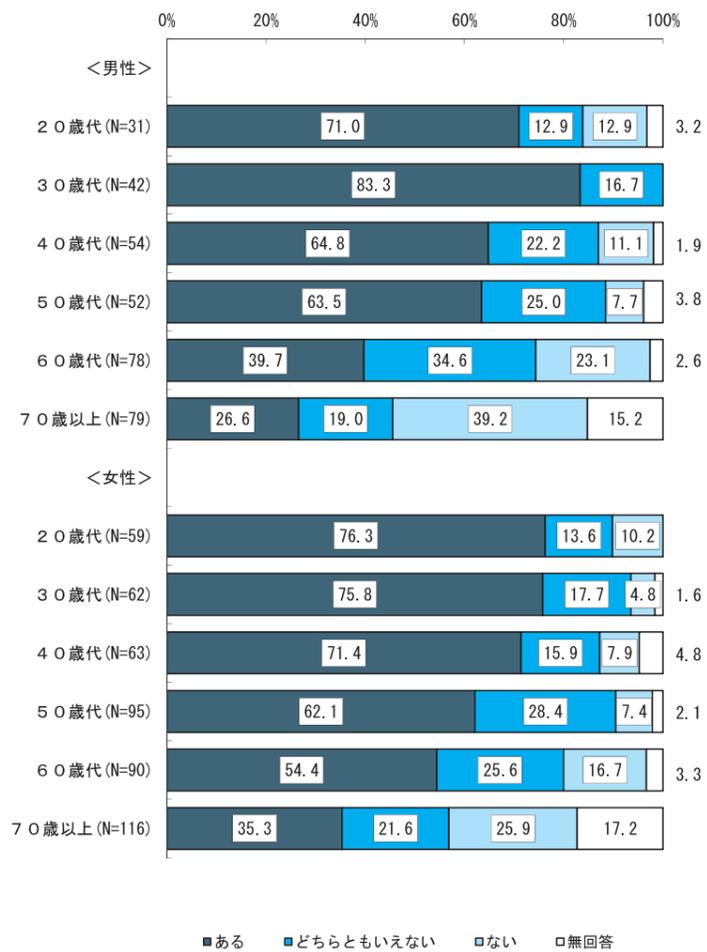


(3) 休養・こころの健康づくり

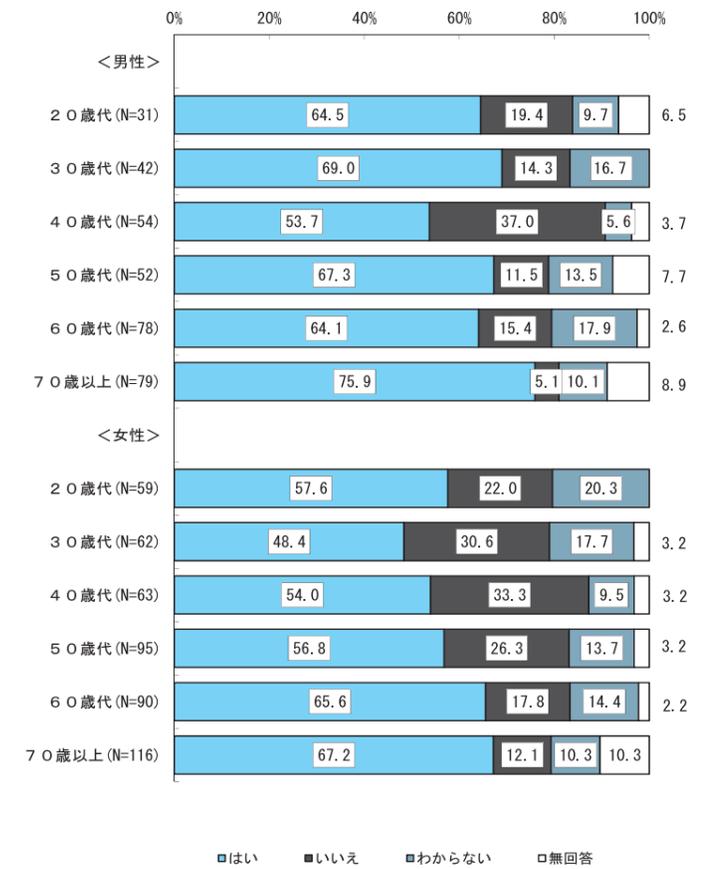
グラフ 41 家庭・学校・職場等でストレス（緊張・不安・あせりなど）を感じた人
 <高校生>



<成人>

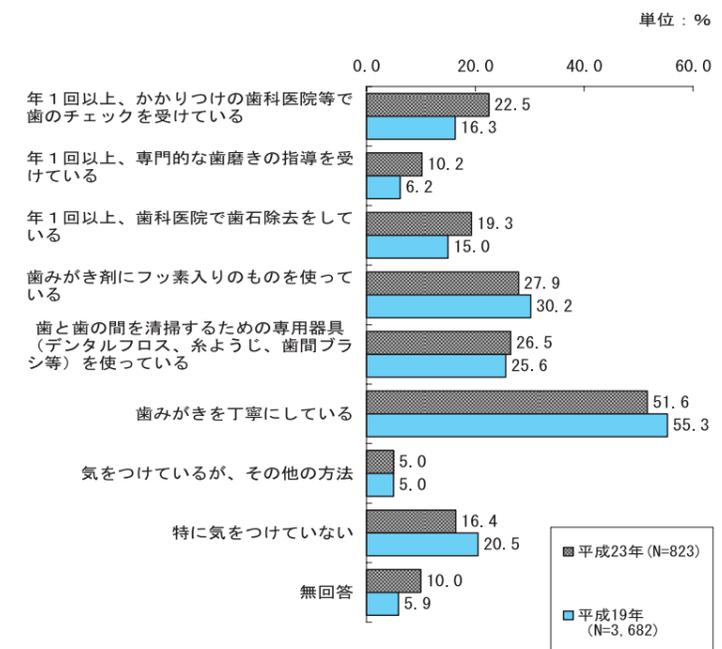


グラフ 42 睡眠によって休養が取れたと感じている人



(4) 歯の健康

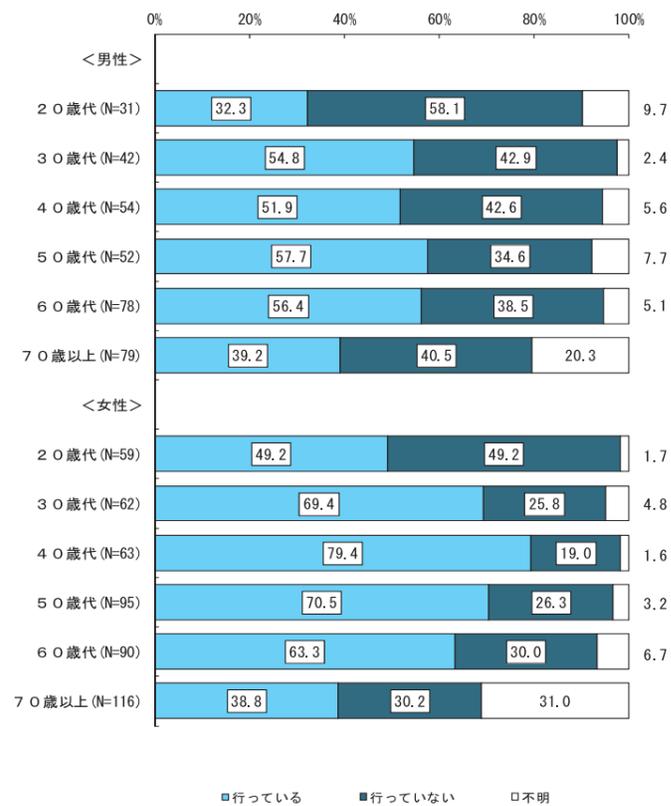
グラフ 43 口腔ケアに取り組んでいる人（全体）



グラフ 44 歯の健康に気をつけている*人（性・年代別）

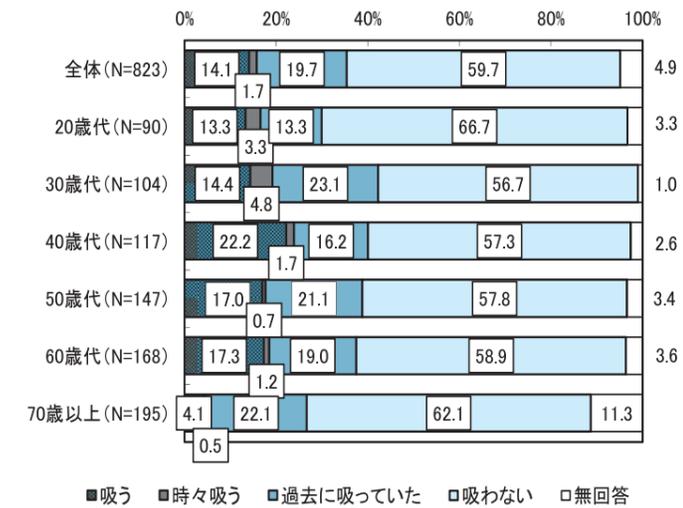
※歯の健康に気をつけているとは

「年1回以上、かかりつけの歯科医院等で歯のチェックを受けている」「年1回以上、専門的な歯みがきの指導を受けている」「年1回以上、歯科医院で歯石除去をしている」「歯みがき剤にフッ素入りのものを使っている」「歯と歯の間を掃除するための専用器具（デンタルフロス、糸ようじ、歯間ブラシ等）を使っている」のいずれかを行っていること



(5) たばこ・アルコール

グラフ 45 たばこを吸う人



(6) 生活習慣病

グラフ 46 BMI 値

